

《新年～年度末》◎客観的な労働時間把握で、超過勤務の縮減を ◎会計年度任用職員制度へ「職場の声」を反映した要求・交渉を



第503号

発行所
自治労連愛媛本部
松山市三番町5丁目10-3
電話(089)931-7314
FAX(089)933-1699
jichirou@age.dwan.jp
発行人 高尾 九幸
編集人 石真 伸

(社団法人愛媛県労連会)
あかあか会館2階211号室

日程

【12月】
15 県本部拡大執行委員会
16 女性部定期大会
17 社保庁不当解雇撤回裁判
高裁判決(高松)
27 県教委学校給食要請

【1月】
11 県本部拡大執行委員会
中子総支部代表者会議
愛媛労連旗びらき集会
自治労連組織集会
(千葉～13)
20 保健師部会幹事会
23 東子総支部代表者会議
24 自治労連中央委員会
(横浜～24)

26 愛媛労連中央委員会

【2月】
1 南子総支部代表者会議
2 非正規公共全国交流集会
(岡山～3)

9 労働安全学習会
10:30～12:00
県本部中央委員会
13:00～16:00

給与改善・人員不足・時間管理など 職場実状を伝え重点要求改善求める



《市町振興課要請》

県本部は11月27日、「愛媛県市町振興課要請」を実施し、14単組15人が参加。県側は市町振興課長はじめ7人が対応。秋季年末の《共通重点要求》について「市町振興課の見解」を受け、各単組参加者が職場実状や改善要望を伝え、やりとり・確認を行いました。(抜粋要約・文責県本部)

■官民格差を解消する給与改善 人事評価制度
《振興課》8月人事院、10月愛媛県人事委員会が「民間給与水準との格差を埋めるため給与勧告」を行った。職員の給与改定は、国勧告・県勧告の内容を考慮し、地域の実状ふまえ各市町で判断していただきたい。県が市町に対し「国勧告、県勧告のどちらに準拠すべき」という立場はない。

《振興課》人事評価制度は、職員のモチベーションと組織全体のパフォーマンス向上をはかることが目的。「評価者の評価能力向上が不可欠」で同時に「評価される側が納得できる制度が大切」と市町に助言している。

■人材確保、両立支援推進、ハラスメント対策
《振興課》市町の技術職員不足の状況は伺っている。採用方法の工夫、募集時期や試験方法、初任給改善などを市町が適正に判断し、人材確保を進めていただきたい。

■労働時間の把握・管理、超過勤務縮減、手当支給
《振興課》厚労省ガイドラインにそった適切な対応を市町に助言している。8月人事院報告で「超過勤務命令の上限設定」が出され、10月県人事委員会報告で「超過勤務の縮減」が出された。労働時間の適正把握は、パソコンログチェックなど先進事例を紹介し、市町に助言している。「超過勤務の自己申告と実態の乖離の調整」は各市町で適正に対応と認識している。

【県本部】昨年から「働き方改革関連法」の議論もあり、県内市町で労働時間把握・管理の工夫や変化が少しずつ生まれている。ただ「自己申告と実態の乖離」の認識は職場実状と離れていると言わざるを得ない。より具体的な助言を要請する。

■非正規職員の処遇改善、会計年度任用職員制度
《振興課》会計年度任用職員の制度設計は、総務省マニュアルにもとづき、職員の制度設計は、総務省マニュアルにもとづき、後「職の必要性」を吟味し、財政事情も考慮し、適正な人員配置を行うよう助言していく。総務省マニュアルにもあるとおり「当該職員と職場への情報周知」と「職員団体等との協議」が必要と考えている。給与については、看護師や保育士などは、事務補助より高く設定することが考えられる。県内20市町は来年6月または9月議会、条例制定予定(3月議会はなし)と把握している。



『四国ブロック』定期総会で『四国はひとつ』 地域を支える自治体職場に

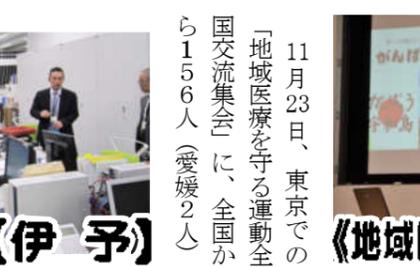
12月1日、香川県で「自治労連四国ブロック協議会第30回定期総会」が開催され、4県64人が参加。午前は《7つの事前会議》①青年部総会、②女性部総会、③現業評議会、④町村評議会、⑤医療介護交流会、⑥保育交流会、⑦組織強化拡大交流会を開催。

午後の《労働学校》では、松繁美和さん(自治労連本部副委員長)を講師に「憲法と地方自治」のテーマで学習。松繁さんは「憲法を知らない人が増えている。自治体職員が憲法を変えようとしていく」「そもそも地方自治とは」「会計年度任用職員制度で包括委託がすすみ、自治体の姿を変える動きが全国で起きていく」など話されました。

その後の《定期総会》では、筒井ブロック議長が「四国で住み続けられる地域をつくる。それを支える自治体職場にしよ」という旨のあいさつし、「活動経緯」「決算予算」「活動方針」の報告提案を受け討論。青年部・女性部・現業評と保育交流会と各県から12人が発言。この1年間『よさこいプロジェクト』『全国自治研集会in高知』など、運動と視野とつながりの広がりを反映し、討論時間が足りないう状況でした。青年部「よさこいでは、ひとりではできないが、仲間がいればできる」と実感し「四国はひとつ」が心に刻まれたなどの発言がありました。



伊予市職労は11月6日「残業実態調査」を実施。18時30分に組合事務所に役員11人が集合し、4班



【伊予】「仕事の本音が聞ける良い機会」
残業職場訪問。「お菓子」に笑顔
にわかれて本庁・別館の職場訪問に出発。1回目19時に時間外調査を開始し、各フロアごとに2、3人の役員が回り、管理職を含め残業中の職員を確認し、残業している職員に「アンケート」とお菓子を配布。「職員組合です、長時間労働の実態調査をしています。アンケートが聞ける良い機会でした。」など感想がありました。



《地域医療交流集会》
11月23日、東京での「地域医療を守る運動全国交流集会」に、全国から156人(愛媛2人)が参加。集会は「住民と共同して自治体病院・地域医療を守る」などをテーマに開催。全国の報告で秋田、岩手、徳島とともに、豪雨災害の救援復興にとりくむ宇和島市立吉田病院での活動について石村さんが報告。「水道含むライフラインが分断され、病院機能維持に職員一丸となった努力」と発言しました。

「愛媛と全国の自治労連の献身的バックアップに支えられた」「大量の水を必要とする病院施設への応急給水活動など、自治体による災害支援体制の重要性」なども紹介。「今回の豪雨災害で、地域のなかで『自治体病院の役割発揮が求められている』ことが明らかになった」と発言しました。



《保育中央行動》
「愛媛署名」持ち、国会議員要請
「よりよい保育を」大集会に3千人
に全国320人(愛媛3人)が参加。情勢学習などの後、国会議員要請で愛媛参加者は愛媛選出の衆参6人の国会議員を回り、7月豪雨災害での保育所の状況を参加者が説明すると、白石洋一議員の秘書が「みなさんの思いはよくわかります。紹介議員になります」とアピールしました。

「子どもたちによりよい保育を!国会要請行動」

11月2日、東京での「子どもたちによりよい保育を!国会要請行動」に参加。国会議員要請で愛媛参加者は愛媛選出の衆参6人の国会議員を回り、7月豪雨災害での保育所の状況を参加者が説明すると、白石洋一議員の秘書が「みなさんの思いはよくわかります。紹介議員になります」とアピールしました。

「愛媛と全国の自治労連の献身的バックアップに支えられた」「大量の水を必要とする病院施設への応急給水活動など、自治体による災害支援体制の重要性」なども紹介。「今回の豪雨災害で、地域のなかで『自治体病院の役割発揮が求められている』ことが明らかになった」と発言しました。



【今治】職場の声大切に「組織拡大」！ 安心して働ける職場を！

今治市職は10月31日「定期大会」を開催し55人が参加。経過報告では、1年間の交渉や協議での前進点や継続課題、「職場の声」を報告し「組織拡大3年計画」のとりくみで、執行部や部会で協力して職場で声かけし、一般職・若手職員・非正規の組合加入が前進した



【西予】介護施設「会計年度職員学習会」 退職手当・勤務時間など質問あり

西予市職労・医療介護支部は11月16日「会計年度任用職員制度の学習会」を『つくし苑』で開催し50人が参加。はじめに荻野支部長が「今回の組合定例学習会は「会計年度任用職員」について制度を理解してもらい、非正規の仲間にも組合にも加入してもらいたい」とあいさつ。高尾県本部委員長がパワーポイントで説明。「具体的な給与水準や勤務条件を決めるには当事者の『声』が一番大切ですよ」と訴えました。説明を聞いた参加者から「退職手当にこれまでの勤務期間は考慮されるのか?」「福祉職場のような変則的な勤務時間だとフルタイムについてどのように判断するのか?」などの質問や意見が出されました。

【今治水道】団結して動きに対応し、 市民のための水道事業を



今治水道労組は11月22日「定期大会」を開催し21人が参加。方針提起で「来年からの私たちの処遇や職場での様々な動き」に対し、①賃上げの流れ継続、②労働時間管理・長時間労働の改善、③定年延長・雇用と年金の接続、④会計年度職員制度の導入対応、⑤市民のための水道事業と職場改善を「運動の課題と目標」としました。同時に、来年の定期大会で執行部の世代交代を「一番の課題と目標」としました。また、県本部役員から政府の「水道事業の民営化と広域化」を進める事例を紹介。報告・議案・規約規程改正案を承認し、終了後は「恒例の焼肉」で交流しました。

【西条】女性組合員交流会「笑顔の子育て」 「要求する大切さ」学びました



西条市職労は11月3日、12回目の「女性組合員交流会」を開催。公務で参加できない組合員もいましがた4人（うち子ども15人）が参加。イベントでは、4つの講座①タオル体操、②フラワーマニリス、③がまロキケース、④クッキングを実施。その後「笑顔の子育て、ありがとうの介護」脳は心、脳は鏡をテーマに学習交流会と秋年末要求書の説明等があり、充実した時間を過ごしました。参加者から「治療と仕事の両立支援について、実際に治療中の方の想いを聞いて『他人ごとではない』とみんなの気持ちも変わったと思う」「要求しなければ叶うこともない、要求していくことが大切!」など感想がありました。

【津島吉田病】「グチ言える職場づくりを」 要求前進の第一歩にしよう



津島吉田病院局労組は11月9日「定期大会」を開催し59人が参加。はじめに若藤委員長が「今年4月に異動があり新しい業務にも慣れ始めた頃に7月豪雨があった。災害対応で職場が混乱し、気がつけば定期大会の時期となっていた。みんなの協力があって開催することができて感謝している」とあいさつ。活動経過では「災害対応での奮闘」や「看護師増員の署名活動」などを報告。運動方針では、①労働時間短縮・休暇取得増に向けた増員要求、②会計年度任用職員制度の内容を充実させる交渉実施などが強調され、「職場のグチが言える環境をつくる」ことが要求前進に向けた第一歩ということを確認しました。

【新居浜】保育が楽しくなる講演会＆ライブ 「大声で笑った。元気が出た」



新居浜市職労保育部会は11月22日、「怪獣博士」と原坂一郎さんを講師に『聴くだけで保育が楽しくなる話』と題した「保育講演会」を開催し64人が参加。この講演会は「みんなが笑顔になれ!明日からすぐ役立つ保育のヒントを!」と企画。保育者の実践を交えたお話を聞き、歌と怪獣のイラストで会場を盛り上げ、生活発表会前の緊張した保育士の心を温かく包んでくれました。第2部は『歌で伝える保育の大切なもの』と題した佐々江辰也さんのミニライブ。心地良い歌声は参加者を大いに魅了。参加者からは「楽しかった!久しぶりに大声で笑った」「疲れていたけど元気が出た。良かった」などたくさん感想がありました。

おたより ありがとう

■今年も残りわずかな日となりました。災害の多い年でした。残りの日々どうか来年は平穏な日々が続いて平和な新しい年を迎えられますよう心から祈ります。
(新居浜・西原)

■毎日走っています。これから寒くなりますが休まず続けて42・195キロ挑戦したいです。継続は力なり!
(宇和島・横田)

■7月の災害直後、薬局に行く回数が増えそうだったので、私も来年からは鳥取へ遊びに行く回数が増えよう。
(四国中央・笹本)

【ヨコのカギ】

- ①予想と違う。意外に。 ○○○○○良くてきた
- ④新しく漬けた漬物。 ○○○○⇔古漬け
- ⑦次々に積み重ねること。 ○○○赤字
- ⑧厳しい暑さ。 ○○○⇔酷寒
- ⑨お金に関する運勢

【タテのカギ】

- ①もめ事や話し合いの妥協点。 ○○○○○を探る
- ②芋が次々出てくるように連鎖する状態。 ○○○○○に検挙される
- ③○○、保母。現在は男女とも保育士に。
- ⑤軽四輪自動車の略称
- ⑥何も入っていない缶。ポイ捨て禁止

出題者 堀川孝行

マス目を埋め、二重枠の8文字で、放送中朝ドラのモデルの実業家にして下さい。

■501号のパズルの答えは「エドガワコナン」(江戸川コナン)でした。
正解は14通でした。正解者のなかから5人の方に図書カードを進呈いたします。(敬称略)

筒井美香(新居浜)
西崎みどり(西予)
横田 知大(宇和島)
山内真由美(西条)
白石 聡(今治)

【応募方法】パズルの解答、氏名、住所、単組名を忘れずに。また、余白に紙面の感想、職場や家庭での出来事などをお書きください。正解者のなかから5人の方に図書カードを進呈いたします。